

## 12. 国際業務、海外勤務、海外留学

経済や社会がグローバル化する中で、厚生労働行政においても、国際的な見地から政策課題に取り組むことも不可欠になってきています。以下では、数理・デジタル職員が活躍する国際業務について紹介します。

### 国際業務))大臣官房国際課

厚生労働省は、保健医療(Health)・労働(Labour)・社会保障(Welfare)等の分野における国際的な課題に積極的に対応しています。例えば、日本政府が加盟しているWHO(世界保健機関)、ILO(国際労働機関)、OECD(経済協力開発機構)などの国際機関において、諸外国との政策対話や日本が世界に誇る分野の情報発信を通して、国際社会における日本の地位の確立や国際貢献を行っています。このような国際業務の中心となる大臣官房国際課は、担当する業務が幅広いため、様々な職種の職員がそれぞれの専門性を活かして業務を行っています。

現在、数理・デジタル職員は主にOECD案件を扱う国際経済機関に1名配属されています。国際経済機関では、データ提供や報告書の確認、フランス・パリのOECD本部で行われる国際関係会議への出席等に対応していますが、そのなかで数理・デジタル職員は医療・保健分野を担当しており、どのようなデータを国際比較の対象とすべきか?といった議論に参加しています。

OECDは各国のデータや政策を収集し、議論を通して政策提言を行う国際機関です。高齢化や気候変動、デジタル化など、世界全体が直面する課題に取り組んでおり、その議論に日本政府を代表して参加する重要な役割を果たしています。



エッフェル塔  
(フランス・パリ)

### 海外勤務 — 在外公館

厚生労働省職員としての経験を一定程度積んだ後、厚生労働分野のアタッシェ(担当官)として、大使館等の在外公館で勤務する機会もあります。相手国政府は、少子高齢化が進んでいる日本の様々な制度、日本政府の対応ぶりに関心を持っています。厚生労働分野のエキスパートとして、政府機関、様々な関係団体、国際機関等に説明、交渉することも多く、ハードではありますがやりがいを感じる仕事であり、国際的なフィールドで幅広い経験を積むことができます。

#### ● 海外勤務者(在フィリピン日本国大使館勤務)より

フィリピンは若い人が多く、将来的なポテンシャルがあり、日本人にも友好的な国として、日本の重要なパートナーとなっています。フィリピンにおける日本政府の窓口として、私は大使館の経済班で主に労働と教育分野を担当しています。技能実習や特定技能などの人材受け入れが円滑に行われるよう関係者と現状や課題意識を話し合うことや、JICAを通じたフィリピン政府行政官を対象とした人材育成関連事業、ILOやUNICEFといった国際機関を通じたプロジェクト(台風支援や中小企業のデジタル化支援など)、日本政府の草の根支援(学校校舎建設など)、日本政府要人の訪問対応など、様々な業務に関わることができ、大変貴重な経験をすることができます。

同僚も各省庁や民間企業からの出向者、ナショナルスタッフと多種多様で霞が関とは一味違った環境になります。海外で生活することで、日本と異なる文化を楽しむことができるのも、海外勤務の魅力です。



日本政府の支援により建設した学校の視察

### 海外留学 — 大学院等

人事院では、全府省の職員を対象に、国際的な行政官を育成することを目的とした「行政官在外研究員(海外留学)制度(長期・短期)」を実施しており、現在は数理・デジタル職員1名が派遣されています。

#### ● 派遣者より

人事院の行政官長期在外研究員制度を利用して2023年9月から英国の大学院(修士課程)に留学し、機械学習について学習・研究しています。家族を連れての留学は困難もありますが、多様な文化的・社会的背景の学生と机を並べて研究に集中できるのは本当にありがたい機会と感じています。AIによって社会・公務も大きく変化していくなか、タイムリーなテーマで留学させていただくことは幸運であり、帰国後は修学を通じて得た知見を公務に活用ていきたいと考えています。



ビックベン(ロンドン)